

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第 9 号

果樹カメムシ類の果樹園への飛来について(第 1 報)

本年の果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）の第 1 世代（新世代）の発生はヒノキのピーティング調査では前年、前々年よりかなり少ない発生量となっています。果樹園への飛来は、7 月 5 半旬のヒノキ球果の口針鞘数調査から、早い地域では 8 月中旬頃から、県平均では 9 月上旬頃と予想されます。

防除に際しては、園内への飛来状況の把握に努め、適期防除を行うよう指導願います。

- 1 対象作物：果樹全般（ナシ、カキ、カンキツ等）
- 2 病虫害名：果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）
- 3 果樹園への飛来時期：県平均 9 月上旬頃（早い地域は 8 月中旬頃から）
- 4 発生量(現況)：前年、前々年より少
- 5 予察調査結果

(1) ヒノキ球果の口針鞘数調査結果

県下 13 カ所における 7 月 5 半旬のヒノキ球果の口針鞘数は、0.1～5.8 本/球果と地域によりバラツキが見られた。県平均では 1.0 本/球果であり平成 26 年度（2.8 本/球果）より少なく平成 25 年（0.7 本/球果）並であった（表 1）。

(2) ヒノキ球果ピーティング調査結果

県下 13 カ所における 7 月 5 半旬のヒノキ球果のピーティング調査から、ヒノキ球果でのチャバネアオカメムシの寄生幼虫数は、1 地点あたり平均 0.4 頭であり、平成 25 年度（2.2 頭/地点）および平成 26 年度（5.0 頭/地点）より少なかった（表 1）。

表1 ヒノキ球果の口針鞘数調査及びヒノキビーティング調査によるチャバネアオカメムシ成幼虫捕獲数と新世代の飛来予測時期

調査場所	口針鞘数調査		ビーティング調査(頭)									新世代の飛来予測時期
	ヒノキ球果		チャバネアオカメムシ									
	被害球果率(%)	口針鞘数(本)	成虫数	幼虫数					計	計		
			1令	2令	3令	4令	5令	計	計			
福岡・飯塚	糸島市高祖	5.0	0.2	1	0	0	0	0	0	0	1	9月中旬頃
	宗像市王丸	5.0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	飯塚市庄内町入水	35.0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	
	平均(3か所)	15.0	0.2	0.3	0	0	0	0	0	0	0.3	
久留米	久留米市田主丸町森部	90.0	5.8	0	0	0	0	0	0	0	0	8月中旬頃 ~9月上旬頃
	うきは市吉井町福益	75.0	2.2	0	0	0	0	0	0	0	0	
	うきは市吉井町屋部	10.0	0.2	0	0	0	0	0	0	0	0	
	平均(3か所)	58.3	2.7	0	0	0	0	0	0	0	0	
朝倉	朝倉市柿原	40.0	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0	9月上旬頃
	朝倉市杷木志波	25.0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	
	朝倉市宮野	35.0	1.1	3	0	0	0	0	0	0	3	
	平均(3か所)	33.3	0.7	1.0	0	0	0	0	0	0	1.0	
八女	八女市黒木町本分	50.0	1.1	1	0	1	1	1	0	3	4	9月上旬頃
	八女市立花町北山(飛形山)	40.0	0.6	0	0	0	1	0	0	1	1	
	みやま市山川町立山	30.0	0.3	1	0	0	0	1	0	1	2	
	平均(3か所)	40.0	0.7	0.7	0	0.3	0.7	0.7	0	1.7	2.3	
京築	みやこ町犀川木山	5.0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	9月中旬頃
	京築地区(1か所)	5.0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	
平均(13か所)		34.2	1.0	0.5	0	0.1	0.2	0.2	0	0.4	0.8	9月中旬頃
H26		66.5	2.8	6.2	0.3	3.4	0.8	0.3	0.2	5.0	11.2	
H25		27.1	0.7	1.0	0.1	0.1	0.9	0.4	0.6	2.2	3.1	
H24		71.2	4.1	4.1	1.4	1.8	0.8	0.1	0.2	4.2	8.4	

注1)口針鞘数は20球果を調査し、1球果当たりの平均を記載。
 注2)ビーティング調査は、1地点5枝、1枝当たり5回のたたき落としの結果。
 注3)チャバネアオカメムシの卵から次世代の成虫になるまでの期間は、夏期の気温で約30~40日。
 注4)平成25年度の越冬量は、平成27年度と同程度。
 注5)新世代の果樹園への飛来予測時期は、堤らの予測式により算出した口針鞘数が25本に達する時期。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 発生は地域差が大きく、同一園内でも被害状況が異なるので、園内を注意して見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。
- (2) 果樹カメムシ類は広範囲に移動するため、薬剤散布は広域一斉防除の効果が高い。
- (3) 薬剤防除の際は、収穫前日数等農薬使用基準を遵守する。
- (4) 降雨があると薬剤の残効が短くなるので、散布間隔に注意する。
- (5) 今後の発生状況については、病害虫防除所ホームページ (<http://www.jpnpn.ne.jp/fukuoka/>) を参照する。